

龍谷大学

佛教学研究室年報

第27号

卷頭言

法 (dhamma ダンマ) への信仰・儀礼について

ティンマーウー 1

媽祖の諸経典と仏教的要素

張 凱 28

『パーリ律』比丘尼犍度の翻訳と注解 (I)

サッチャーナンディー 58

『維摩経』における善巧方便について

レフーフーツク 80

普泰撰『八識規矩補註』に見られる明代唯識教学の一考察

常 偉 106

彙報

..... 142

浄影寺慧遠『観無量寿経義疏』の基礎的研究

一天台『観経疏』との比較を通して—

山名 深 170

令和5年3月

龍谷大学仏教学院学生会則

第一章 総則

第一条 本会は、龍谷大学仏教学院学生会と称する。

第二条 本会は、院生の自治を基本として、学問の自由を擁護し、龍谷大学仏教学院院生の研究活動の向上に努め、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第三条 本会は、執行部を京都市下京区七条大宮龍谷大学仏教学研究室内に置く。

第二章 会員

第四条 本会は、次の会員を以て構成する。

一、正会員 龍谷大学大学院仏教学専攻に在籍するもの。

二、準会員 本会の主旨に賛同し、特に本会に認められたもの。

三、賛助会員 本会の主旨に賛同し、財政面での支援という形で協力するもの。

三、賛助会員 本会の主旨に賛同し、財政面での支援という形で協力するもの。

第三章 総会

第五条 総会は、本会の最高議決機関である。

第六条 総会は、本会の正会員をもつて構成する。

第七条 総会は、正会員の三分の一以上の参加をもつて開催することができる。

第八条 総会は、会長がこれを招集し、次の場合に開催される。

一、定期総会（毎年四月）

二、会長が必要と認めた場合。

三、正会員の五分の一以上の連署による請求があった場合。

第九条 総会における決議は出席会員の過半数の同意を必要とする。

第四章 執行部役員

第十条 本会は、次の役員をおく。

一、①会長一名②副会長一名③会計一名④編集員一名⑤会計監査一名⑥文学部院生協議会代表委員一名

二、ただし、①③以外の兼任はこれを妨げない。

第十一条 会長は、会員の推薦により総会の承認を得る。又、役員は、総会において正会員より選出する。

第十二条 会長は、本会を代表し、執行部は統括する。

第十三条 役員は任期は一年とし、再任並びに兼任を妨げない。

第十三条 役員は任期は一年とし、再任並びに兼任を妨げない。

第五章 事業

第十四条 本会は第二条の目的を達成する為、次の事業を行う。

一、研究発表会、講演会等の開催並びにその援助

二、出版物の刊行。

三、会員親睦に関する事業。

第十五条 第十四条一、二、の事業に関しては次のとおりを行う。

一、原則として正会員は、年一度研究発表をすることを前提とし、その発表の場として定例研究発表会を行うものとする。

二、研究発表会に関しては、次のとおりを行う。

イ、修士課程（以下Mと略す）一年は、一年間を発表猶予期間とみなし、翌年度初頭における研究過程報告会にて発表を行うものとする。

ロ、M二年以上は、修士論文提出前に行う中間発表をもつて、これにかえることができる。但し、該当年度の論文提出を行わないものも、研究経過の発表をもつてこれにかえることができる。

ハ、博士後期過程（以下Dと略す）は、何等かの研究雑誌に活字化された論文の発表を行う。

ニ、但し、D一年は、修士論文要約（『大学院紀要』に掲載分）をもつてこれにかえることができる。

三、第十四条二の内、年一回は、研究雑誌の発刊を行うものとする。又、発刊に際しては、編集委員会を置き、本会執行部役員をもつてこれを構成する。

イ、編集委員の内、編集委員長一名を互選し委員を統括するものとする。

ロ、但し、編集委員会が必要と認めた場合、

若十名の委員を、正会員より委員長が任命することができる。

第六章 会計

第十六条 本会の会計年度は、毎年四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第十七条 本会の経費は、還元金、会費、寄付金およびその他の収入とする。

正会員会費 年額 三、〇〇〇円

準会員会費 年額 二、〇〇〇円

賛助会員会費 年額 二、〇〇〇円以上

第十八条 本会の決算報告は、監査委員の監査を受けた後、執行部が決算報告書を総会に提出し、その承認を得なければならぬ。

付則 一、本会則は、総会の決議により改変することができる。

二、本会則は、昭和六十年四月一日施行の龍谷大学仏教学院学生会則の一部を改変し、平成三年五月一日より施行する。

三、平成六年四月十八日、一部変更。

四、平成二十四年十二月十二日、一部変更。

五、平成二十五年十二月十日、一部変更。

六、平成二十九年四月二十一日、一部変更。

巻頭の辞

『龍谷大学佛教学研究室年報』第27号が刊行されました。『年報』は、1985年に創刊号が発刊されてから、今年で38年になります。

『年報』は大学院生や研究生などに、自分の研究成果を提供する場を提供し、同時に相互の研究意欲を高めていくという目的で創刊されました。論文を書くと、自分の書いた部分だけを小冊子にした抜刷が、20部から30部程度進呈されました。近年では、Web上に論文がアップされることが多いため、抜刷そのものが減少していますが、当時はこの抜刷を同じ研究分野の他大学の先生方にも送っていました。私自身、指導教授から先行研究を参照させていただいた先生に抜刷をお送りするのは礼儀だと言われ、論文を書くたびに、せせせと郵送していました。結構、面倒な作業でしたが、多くの場合、送付先の先生からは、論文についてのコメントや励ましのお言葉などが記されたお礼状が送られてきて、それがたいへん勉強になり、また自信に繋がりました。

研究は一人でできるものではなく、様々な人たちの学恩によって進めることができます。そして、その成果を新たな論文にまとめて提示して、良くも悪しくも評価を得ます。それが新たな知見を得ることになり、次の研究成果へと結びついていくのです。

今回の『年報』には、6点の意欲的な論文が掲載されています。コロナ禍において、様々な制約がある中で、各々の研究成果が公刊されたことは、たいへん嬉しく思っています。これからも大学院生や研究生の皆さんが、切磋琢磨して更なる成果を上げられますことを念願しています。

龍谷大学仏教学教室代表 藤丸 要

彙報

(2022年1月～12月)

2021年度 仏教学院生会員研究発表題目

《2021年度 龍谷大學佛教学會学術研究発表会》

2021年1月25日(火)

於：オンライン(龍谷大学主催)

- ・ サッチャー ナンディー (研究生)
比丘・比丘尼の性転換について
- ・ ティン マー ウー (研究生)
現代におけるミャンマーの仏教徒のダンマ
(dhamma 法)への信仰と儀礼
- ・ 安川 真由 (D2)
〈大般涅槃經〉における付嘱と秘密藏
- ・ 萩野 翔太 (D2)
湛然の行位解釈について
- ・ レ フー フーツク (D2)
A STUDY ON THE CONCEPT OF UPĀYA-KAUŚALYA
IN EARLY BUDDHISM

2021年度 仏教学院生会員研究業績

- ・ 西山 良慶 (研究生)
「良算撰『愚草』「大悲闡提〈上〉」翻刻読解研究」
『佛教学研究室年報』第26号, pp.1-32, 2022年3月

・萩野 翔太 (D2)

「日本天台における行位論の展開 —名別義通を中心に—」

『佛教学研究室年報』第 26 号, pp.33–54, 2022 年 3 月

・王 若寶 (D1)

「唐中大雲寺円暉撰『楞伽經疏』の研究

—フランス国立図書館所蔵敦煌写本 P.2198 の翻刻—」

『佛教学研究室年報』第 26 号, pp.55–76, 2022 年 3 月

・レ フー フーツク (D2)

「初期仏教における善巧方便の研究」

『佛教学研究室年報』第 26 号, pp.82–109, 2022 年 3 月

・安川 真由 (D2)

「〈大般涅槃經〉における阿難への付嘱について」

『佛教学研究室年報』第 26 号, pp.110–139, 2022 年 3 月

・サッチャー ナンディー (研究生)

「ミャンマー国家僧統委員会編『比丘尼についての裁定資料』

(Bhikkhunīwinissaya Sardan) 翻訳と注解 (後篇)」

『佛教学研究室年報』第 26 号, pp.140–168, 2022 年 3 月

・ティン マー ウー (研究生)

「ミャンマー仏教徒の儀礼と信仰

—僧伽に関する儀礼・信仰を中心として—」

『佛教学研究室年報』第 26 号, pp.169–194, 2022 年 3 月

・魏 藝 (研究生)

「智蔵と僧旻の二乗有無について」

『印度学仏教学研究』70(2), pp.739–742, 2022 年 3 月

2022年度 仏教学院生会員研究発表題目

《日本印度学仏教学会 第73回学術大会》

2022年9月3日(土) 於:オンライン(東京外国語大学主催)

・魏 藝 (研究生)

中国南北朝における十地の諸系統について

・隆 明 (研究生)

李通玄における摩耶夫人の理解

・萩野 翔太 (D3)

円珍撰『観普賢菩薩行法経記』における引用文献について

・レ フー フーツク (D3)

A Study on the Concept of Upāyaka-kausalya in Early Buddhism

・王 若實 (D2)

『鎌倉時代の仏教文献に見られる契丹僧証明』

2022年9月4日(日)

於:オンライン(東京外国語大学主催)

・安川 真由 (D3)

〈大般涅槃経〉における一子想の意義について

《日本宗教学会》

2022年9月10日(土)

於:オンライン(愛知学院大学主催)

・サッチャー ナンディー (研究生)

諸律の比丘尼犍度の研究—パーリ律を中心に—

・ティン マー ウー (研究生)

ミャンマー仏教徒の砂塔祭りについて

2022 年 9 月 11 日 (日) 於：オンライン (愛知学院大学主催)

・張 凱 (研究生)

媽祖信仰と疫病について

《パーリ学仏教文化学会》

2022 年 10 月 8 日 (土) 於：オンライン併用 (龍谷大学主催)

・サッチャー ナンディー (研究生)

諸律藏における比丘尼戒度の研究

— 『パーリ律』八重法の第六重法を中心に—

《2022 年度 修士論文中間発表会》

2022 年 10 月 25 日 (火) 於：龍谷大学 (東齋 101 教室オンライン併用)

・積 宗衆 (M2)

隋唐初期浄土教における「九品論」の研究

・楠 誠証 (M2)

宗性撰『華嚴宗香薫抄』の研究

・小西 貴文 (M2)

中世日本における弘法大師信仰の展開

— 諸尊格との関係に注目して—

2022 年 10 月 27 日 (木) 於：龍谷大学 (北齋 204 教室オンライン併用)

・山崎 健哉 (M3)

『修習次第』の六過失・八断行について

・高輪 真悟 (M2)

Pramāṇavārttika 第 II 章 Pramāṇasiddhi kk. 1-7. pramāṇa の研究

— pramāṇa の特質と pramāṇabhūta の解釈を中心に—

・福間 美華 (M2)

『大阿弥陀経』における「齋戒」と uposatha との関連について

- ・ チョンプロオン プラハマサンチャイ (M2)

律文献に見られる自恣の研究

《密教図像学会 第42回学術大会》

2022年11月19日(日) 於:同志社大学

- ・ 戴 鷺 (D2)

新知恩院本「六道絵」の「餓鬼道幅」に関わる図像学的新解釈

2022年度 仏教学院生会員研究業績

- ・ 魏 藝 (研究生)

「中国南北朝における十地の諸系統について」

『印度学仏教学研究』第71巻(1), pp.12-15, 2022年12月

- ・ 嶋本 弘徳 (研究生)

「瑜伽行派对如来藏思想的理解」

『东亚佛学评论』第7号, pp.119-145, 2022年12月

- ・ 劉 婷婷 (研究生)

「众贤对形色实有说的论证」

『东亚佛学评论』第7号, pp.146-160, 2022年12月

- ・ 隆 明 (研究生)

「李通玄における摩耶夫人の理解」

『印度学仏教学研究』第71巻(1), pp.264-267, 2022年12月

- ・ 萩野 翔太 (D3)

「天台行位論における名別義通

—特に『摩訶止観』と湛然の注釈を中心に—」

『龍谷大学大学院文学研究科紀要』第44集, pp.35-52, 2022年12月

・安川 真由 (D3)

「〈大般涅槃經〉における一子想の意義について」

『印度学仏教学研究』第71巻(1), pp.88-91, 2022年12月

・王 若寶 (D2)

「鎌倉時代の仏教文献に見られる契丹僧証明」

『印度学仏教学研究』第71巻(1), pp.54-57, 2022年12月

・富永 真誠 (D1)

「南伝上座部における頭陀の研究」

『龍谷大学大学院文学研究科紀要』第44集, pp.46-63, 2022年12月

2022年度 院生会活動報告

- ・ 仏教学院生会総会 4月28日 (木) 於：清和館3Fホール
- ・ 卒業論文の書き方説明会 6月28日 (火) 於：オンライン
- ・ 仏教学院生会研究発表会 7月19日 (火)
於：東覺101教室 (オンライン併用)
- ・ 修士論文中間発表会 1日目 10月25日 (火)
於：東覺101教室 (オンライン併用)
- ・ 修士論文中間発表会 2日目 10月27日 (木)
於：北覺204教室 (オンライン併用)
- ・ 『龍谷大学佛教学研究室年報』第27号 発行 (3月)

本誌は創刊以来、龍谷大学仏教学科の院生の自主的かつ意欲的な姿勢による企画編集を経て、出版を実現してきました。近年は院生の人数減少もあいまって執筆者の減少が顕著でしたが、院生の研究成果を発表できる貴重な場が失われないようにと、毎年の発刊を目標につとめてまいりました。財政難により一時は発刊が危ぶまれた本誌ですが、賛助会員による温かいお力添えのもと、2017年度以降各号に執筆応募が増え、内容の充実した論文雑誌の刊行が継続できております。

ここに『龍谷大学 佛教学研究室年報』第 27 号の事業完了のご報告を申し上げますと共に、龍谷學會及び龍谷大学親和会、そして賛助会員をはじめ、ご協力を賜りました関係各位に対し、謹んで御礼を申し上げます。

2023 年 3 月吉日 龍谷大学仏教学院生会

龍谷大学 佛教学研究室年報 第 27 号	
2023 年 3 月 31 日 発行	
編集者	龍谷大学仏教学院生会
発行者	龍谷大学仏教学院生会 〒600-8268 京都府京都市下京区七条通大宮東入大工町 125-1 龍谷大学仏教学合同研究室内 TEL. 075-343-3311 (代)内線 5122
印刷所	株式会社 北斗プリント社 〒606-8540 京都府京都市左京区下鴨高木町 38-2 TEL. 075-791-6125

BULLETIN OF BUDDHIST STUDIES

RYUKOKU UNIVERSITY

No. 27

CONTENTS

Foreword

Faith and rituals for dhamma

TIN, Mar Oo 1

Mazu scripture and Buddhist elements

ZHANG, Kai 28

Annotated Translation of Bhikkhunīkhandhaka of Pāli Vanaya

THITSAR, Nandi 58

A Study on The Doctrine of *Upāya-Kauśalya* in the *Vimalakīrtinirdeśa Sūtra*

LE, Huu Phuoc 80

A Study of the Ming Dynasty Consciousness-Only Teaching as Consideration in Pu Tai's
"Eight Consciousnesses Rule Commentary"

CHANG, Wei 106

The fundamental study of Jingyingsi Huiyuan's the *Kuan wu liang shou ching i shu*:
Through comparison with Tiantai's the *Kuan ching shu*

YAMANA, Jin 170

March 2023